

伊予銀行地域文化活動助成制度
第67回 助成団体紹介資料

2025年 5月

目 次

<中予地区>

1. 松山市民劇場
2. 宮前文化遺跡を守る会
3. 矢谷・井関獅子舞保存会
4. 伊予短歌会
5. 佐礼谷獅子舞保存会
6. 伊予つばき協会
7. 安勝会
8. 向井獅子舞保存会
9. 越智獅子舞保存会
10. 久米はいじの会
11. 飛翔歌会
12. 市坪獅子舞保存会

<東予地区>

13. 今治市民吹奏楽団
14. 阿方獅子舞保存会
15. 伯方さざなみコーラス
16. 北側まつり保存会
17. かみうら海道夢太鼓
18. 小松山草会

<南予地区>

19. 猿田彦ねり保存会

道後支店推薦	まつやまし みんげきじょう 松山市民劇場	設 立	1965(S40).9
	代表幹事 <small>まつだ ゆうじ</small> 松田 裕二 氏	会員数	540 名

松山市民劇場様は、1965年に設立された会員制の演劇鑑賞団体です。

四国内の他の演劇鑑賞団体と協力し、地方では観る機会が少ない一流劇団の舞台を招致する活動を続けており、会員は単なる観劇にとどまらず、「自分たちが芝居と役者を育てる」という意識のもと、演劇文化の普及発展に努めています。

コロナ禍で一時会員数が激減しましたが、近年は回復傾向にあり、現在は540名が所属。

会員は数名ずつでサークルを結成し、年間6回の演劇公演「例会」の様々な事前準備や、大道具類の運搬・設営等を複数サークルが協力して行うことで、これまでに360回以上の例会を開催してきました。

2025年度も6作品を上演する他、創立60周年を迎えることから、今年10月に記念講演会やミニコンサート、過去のポスター展、記念誌の発行等の記念事業を開催予定です。



1月 人情劇「文七元結」
劇団前進座
原作/三遊亭團朝 脚色/平田兼三
出演/藤川矢之輔 早瀬栄之丞 有田佳代 ほか
左官の長兵衛は江戸っ子気質、大川端で身投げしようとしている若者に、大切な五十両を与えてしまう。併演「楽しい歌舞伎」。

心づるおす 江戸の人情
27日(月)
18:30~
県民文化会館サブホール

2025年の例会
5月 オペラ「あん」
オペラシアターこんにゃく座
原作・台本/ドリアン助川 演出/上村聡史
出演/島田大翼 梅村博美 熊谷みさと ほか
千太郎のどら焼き屋は錦江のつくる美味しあんで大繁盛。だが、ある噂が流れ、錦江は店を去る。原作・台本はドリアン助川。

あの話題作をオペラで
13日(火)
18:30~
県民文化会館サブホール

9月 「夜の来訪者」
俳優座劇場プロデュース
作/小・B・ブリストリ 脚本/八木隆一郎 演出/西川信廣
出演/柴田龍之 山崎美貴 尾身美詞 馬場太史 藤田康弘 有賀ひろみ 瀬戸口郁
一家だんらの夜を過ごす食料店に見知らぬ男が現れ、ある女の死を告げる。人と社会の関わりを鋭く、社会派ミステリーの傑作。

彼女は何で死んだの？
19日(金)
18:30~
県民文化会館サブホール

3月 「グレイクリスマス」
劇団民藝
作/斎藤慎 演出/丹野都弓
出演/中地美佐子 千葉茂則 塩田泰久 神敬将 岡本健一(客演) ほか
進駐軍に母屋を接収された五條伯爵家。伯爵の後妻・華子は、日系二世の軍人ジョージの脱くデモクラシーに胸をときめかせるが...

今、振り返る激動の戦後
6日(木)
18:30~
会場が変わります⇒市民会館中ホール

7月 「5月35日」
Pカンパニー
作/註梅岩 訳/マギー・チャン 石原燃
演出/松本祐子
出演/竹下景子 林次樹 内田羅隆 ほか
北京に住む老夫婦はある決心をする。それは6月4日に天安門広場で息子を追悼すること...。竹下景子が余命わずかな妻を熱演。

自由を語る香港現代劇
8日(火)
18:30~
県民文化会館サブホール

11月 「昭和虞美人草」
文学座
作/マキノノゾミ 演出/西川信廣
出演/早坂道家 富沢聖古 穂田真介 鹿野典央 上川路啓志 西村知寿 松本祐華 ほか
ロック雑誌「ニビタ」の刊行に情熱を燃やす若者たちをコミカルに描く。「そいつ」はロックじゃないぜ」に込められた思いとは？

70年代の青春群像劇
20日(木) 予定
18:30~
県民文化会館サブホール

三津浜支店推薦	みやまえぶんかいせき まも かい 宮前文化遺跡を守る会	設 立	1989 (H1) . 11
	わたべ さとし 会長 渡部 哲 氏	会員数	61 名

宮前文化遺跡を守る会様は、松山市宮前地区に点在する貴重な遺跡を保存継承しようと、地元有志により結成されました。

この地域は「古三津」とも呼ばれ、藤原純友にまつわる遺跡や、「刈屋畑の戦い」で戦死した武将を弔う祠や塚が数多く残る、歴史に彩られた地です。祠等は「能登さん」「加藤さん」等、親しみこめて呼ばれており、守る会が説明板や案内板を設置して大切に守り伝えてきました。

また、管理が困難となった遺跡の移設や保存、藤原純友の命日にあわせた参拝や、「刈屋畑の合戦」の慰霊祭を実施。一般の方も参加できる講演会も開催しています。

宮前小学校6年生を対象とした遺跡巡りの郊外学習「ふるさと宮前めぐり」の講師も努め、遺跡の歴史や伝承を丁寧に伝えており、これからも貴重な文化遺産の継承と保存に取り組んでいきます。



森松支店推薦	やだに いせきししまいほぞんかい 矢谷・井関獅子舞保存会
	会長 <small>たかすか</small> 高須賀 <small>じんご</small> 仁五 氏

設 立	1978(S53).9
会員数	25名

矢谷・井関獅子舞保存会様は、松山市東方町の矢谷・井関地区に伝わる獅子舞を保存伝承されています。

詳細な由来は定かではありませんが、戦後数年間、近隣地区が一つの獅子頭を使い回していたところ、地区ごとに道具を揃えることとなり、本地区も1978年に獅子頭や油単を揃え、保存会を設立しました。他地区と比べて獅子頭がやや大きく、重厚な造りの雌獅子で、優雅でゆったりとした動きが特徴です。

演舞は「西枕にしまくら」と「東枕ひがしまくら」の2部構成で、演目は露払い、芋ほり、獅子退治などがあり、毎年、三島神社の秋祭りで奉納する他、公民館や福祉施設で舞を披露しています。

1993年からは子供獅子舞も開始し、現在は地元の子ども会と連携しながら会員確保や後継者育成に取り組んでおり、地域の獅子舞を、未来へ繋ぐ取組みを続けていきます。



郡中支店推薦	いよたんかかい 伊予短歌会	設 立	1979(S54).4
	編集世話人 <small>こかど</small> 古角 <small>あきこ</small> 明子 氏	会員数	18名

伊予短歌会様は、短歌を通じてふるさと伊予市を愛する心を培い、地域文化の発展・向上へ寄与しようと、1976年に設立されました。

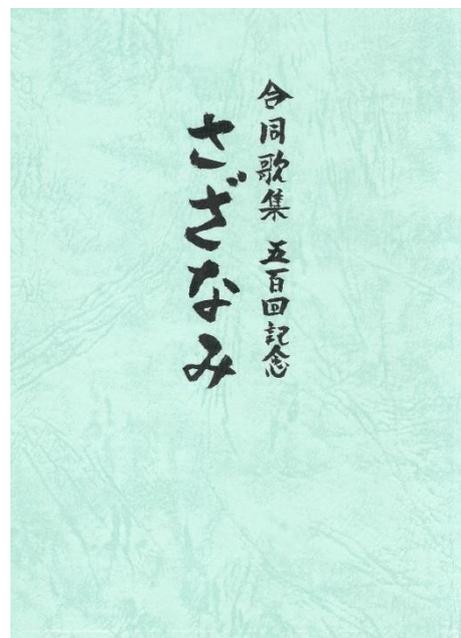
豊かな自然と歴史を持つ伊予市の風景や人々の営みを題材に、抒情豊かな短歌を詠み、全国へその魅力を発信しています。

会員は60歳代から90歳代で、毎月例会を開催。現在、設立以来の会員である大西米子氏が講師を務めており、今年4月には例会500回記念合同歌集「さざなみ」を発行しました。

定例活動として、愛媛新聞への投稿や、伊予市文化祭での作品展示、愛媛県県民総合文化祭の短歌大会や、子規顕彰全国短歌大会等に参加している他、毎年開催される松山歌人会主催の「にきたつ全国短歌大会」に全会員が詠出すると共に、スタッフとしても協力し、伊予文化の発信に努めるなど、地域に根差した活動を続けています。



ノアの方舟はこぶね 古角明子
あかとき画面の落語に西行の御名の出できて姿勢を正す
スコールのようなひと雨過ぎしあと君の言葉のような虹立つ
古里の夕月白き刈小田に祭太鼓の音の遠鳴る
子規と律の名を付けられし子規博の椿二輪の清かに息づく



郡中支店推薦	されだにししまいほぞんかい 佐礼谷獅子舞保存会
	会長 <small>みずもと</small> 水元 <small>たけし</small> 猛 氏

設立	1976(S51).7
会員数	18名

佐礼谷獅子舞保存会様は、江戸時代中期に佐礼谷竹之内地区で始まったとされる獅子舞を保存伝承されています。

1976年に保存会が結成された後、青年団員の減少で中断しますが、当時の佐礼谷小学校教諭の尽力で子供の獅子舞が復活し、以降は小・中・高校生主体で活動を繋いできました。

2023年には、50歳代の住民が新たに入会したことをきっかけに、大人の会員が増加し、35年ぶりに大人の獅子舞も復活しています。

ダイナミックな動きが特徴の乱獅子で、「畑を荒らす獅子を、狩人が退治して安泰豊作となる」という筋立てですが、数度の中断や人員減少の影響で、現在は見栄えの良い演目に絞って伝承しています。昨年の秋祭りでは、大人獅子が宮出しを、子ども獅子が御旅所での演舞を担当しました。今後も世代を超えて地域が一体となり、歴史ある獅子舞の伝統を繋いでいきます。



松前支店推薦	いよ きょうかい 伊予つばき協会
	やまぐち さとし あいばら せいじ 会長 山口 聰 氏 (出席:副会長 相原 誠二 氏)

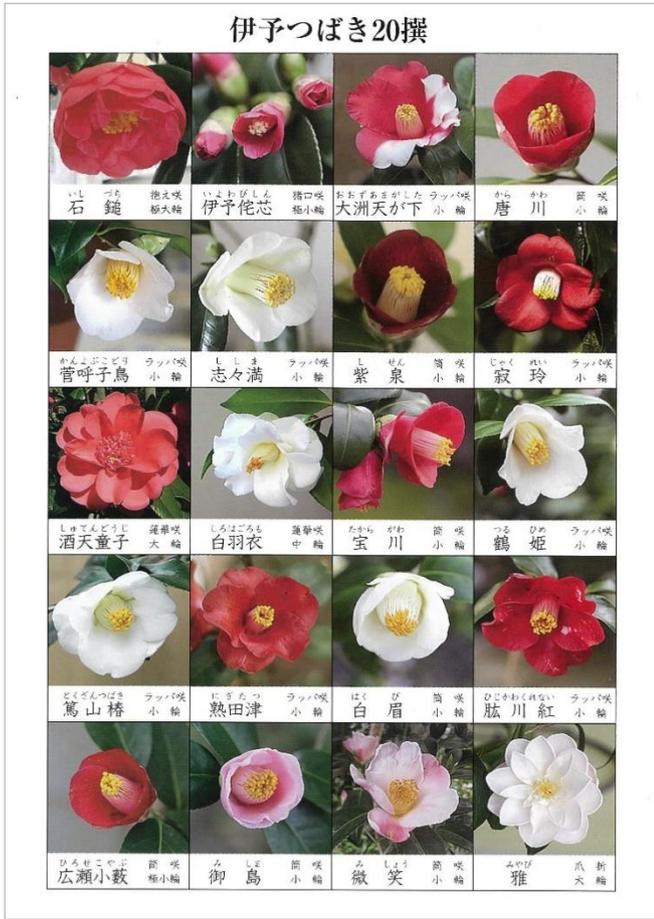
設 立	1975(S50).4
会員数	65名

伊予つばき協会様は、1975年に椿の愛好家や研究者が集い、「伊予つばき同好会」として設立され、1986年に現在の名称に改称しました。

愛媛県は椿の自然群生地が多い全国有数の椿産地で、原木があるオリジナル椿が100種類以上確認されており、協会はその発掘、保護、育成等を目的に活動しています。

毎年、萬翠荘で開催する「伊予つばき名花展」や、「松山城二之丸つばき名花展」は、県内外の愛好家や、海外からの来場者が多く訪れる人気イベントとなりました。道後温泉つばき巡りウォークや、挿し木・接ぎ木講習会なども実施し、椿文化の普及に努めている他、松山城堀之内公園に植えられた約50種、100本以上の椿の管理もボランティアで行っています。

今年は、創立50周年を迎えることから、愛媛の代表的な椿や名花の魅力を掲載した記念誌を発行予定です。



松山北支店推薦	あんしょうかい 安勝会	設立	1999(H11).10
	会長 かとたゆうき 門田 佑樹 氏	会員数	82名

安勝会様は、勝岡八幡神社秋季大祭で行われる「一体走り」と「川狩り」の伝統行事を保存継承されています。

「一体走り」は、神輿を高く掲げたまま約300mの神社参道を一気に駆け抜ける勇壮な行事で、宝暦4年(1754年)の「和氣郡代官所日記」にも記録があり、松山市の無形民俗文化財に指定されています。四方に大型の鈴をつけた神輿を、なるべく音を鳴らさないように走るのが良いとされ、参加する各地区の担ぎ手は、スムーズでスピーディな走りを目指し、数ヶ月前から練習を重ねます。その他、本会では久枝小学校の「川刈り体験授業」のサポートや、「一体走り」体験の実施、勝岡八幡神社の清掃活動等も行っています。

近年は人員確保が課題ですが、今後は女子の子供神輿への参加も進めるなど、より幅広い世代へ祭への参加を呼びかけ、地域の絆を深めながら伝統を未来へ繋げていきます。



小野支店推薦	むかいししまいほぞんかい 向井獅子舞保存会
	会長 <small>ただ</small> 谷田 <small>きょうすけ</small> 恭祐 氏

設立	1998(H10).1
会員数	46名

向井獅子舞保存会様は、松山市平井町にしのみやの西宮神社に伝わる獅子舞を保存伝承されています。
もとは下刈谷地区しもかりやの子供獅子舞として始まり、向井地区の子供たちにも継承させたいと、下刈谷地区から舞や太鼓を習い、保存会が設立されました。

近年はコロナ禍で獅子舞を経験した子供が減り、指導者不足となったため、社会人や大学生の経験者に依頼して練習を再開。現在は、小・中学生を主体に、高校生や大人も加わり、小野地区子ども獅子舞競演会や、西宮神社の秋祭り、初子祭、春祭り等で舞を披露しています。

演目は「とんどこ」と「つゆはらい」の2つで、近年は女子の舞手が増えてきました。

2023年からは、練習を「地域のコミュニケーション作りの場」と位置づけ、公民館分館や自治会青年部が積極的に関与しており、獅子舞の活動が、地域の連帯感醸成にも繋がっています。



椿支店推薦	おちししまいほぞんかい 越智獅子舞保存会	設 立	1974(S49).1
	代表者 <small>つかの たかし</small> 塚野 貴志 氏	会員数	30名

越智獅子舞保存会様は、松山市越智に伝わる獅子舞を保存伝承されています。

2人立の雌獅子で、演目は「ドコドコ」「ヤツバチ」など6つ。テンポの良い太鼓のリズムに合わせて優雅な舞を披露し、毎年10月の秋祭りでは越智公民館で奉納をしています。

コロナ禍で一時会員が激減し閉会も検討しましたが、子供会との連携や、SNSを活用した呼びかけで会員が大幅に増加しました。

近年は、上級生が下級生を指導する体制が整った上に、練習風景の動画を見て、家で自主練習するなど意欲的な子供が多いことから、子供たちの演舞機会を増やそうと、去年は小学校や公民館、四国がんセンター、農協の農業祭等でも演舞を披露しました。

活動費の足しにしようと、シーズンオフには全員でさつまいもを育て、町内バザーで販売するなど、創意工夫を凝らしながら楽しく活動しています。

久米支店推薦	くめ かい 久米はいじの会	設 立	2003 (H15). 4
	かどた くにひこ 会長 門田 邦彦 氏	会員数	40 名

久米はいじの会様は、国指定史跡「久米官衙遺跡」等、地域の遺跡や歴史を通じた地域活性化を目指し、有志により設立されました。

久米官衙遺跡は、7～8 世紀頃の役所跡等を中心とした遺構群と、地元の豪族 久米氏が建立したとされる来住廃寺跡で構成される貴重な史跡です。

会では、多くの人々が訪れるきっかけになればと、遺跡での楽器演奏会や、曼殊沙華の鑑賞や行灯アートを楽しむ「曼殊灯会」など、多彩なイベントを開催。また、松山市教育委員会と協力した資料展示や子供向け体験学習、研修旅行やウォークラリー、久米小学校の校外学習「ふるさと久米めぐり」の支援など、多岐にわたる活動を展開してきました。

本年は 20 周年記念誌を発行し、久米地区の歴史や散策コース、遺跡の詳細をまとめ、地域の文化と歴史を未来へつなぐ一冊として、図書館や学校等へ広く配布する予定です。



古川支店推薦	ひしょうかかい 飛翔歌会	設 立	2011(H23).4
	会長 <small>まえだ としひこ</small> 前田 敏彦 氏	会員数	13名

飛翔歌会様は、和歌・短歌の愛好者6名によって2011年に設立されました。

「深く自己へ、広く人へ」を理念に掲げ、普遍性を求めた作品づくりに取り組んでいます。

本会は指導者を持たない「同人」形式で、会員は毎月2回「月列会」を開催し、互いの作品を鑑賞しあいながら研鑽を積んでいます。

また、年1回発行する会誌「飛翔」は、会員の作品だけでなく、短歌に関する考察や感想、評論の他、エッセイや著名な歌人の寄稿も掲載し、単なる作品集ではなく「文芸誌」としての深みを持たせています。

さらに、和歌・短歌の普及活動として、昨年からは誰でも参加できる「勉強会」を開催し、短歌初心者への指導も始めました。

今年度は「飛翔 特別記念号」を発行予定で、活動のさらなる充実を図っていきます。

旋 律

風邪をひき顔も洗はず床に入り髭の長さを指で確かむ
 熱をおびのどの乾きし口中に西条柿の完熟美味し
 真冬日を書斎に籠り一日に三度餅喰ひ猫のごと寝を寝
 遁世の身を引き締める経を読み春を言祝ぐ松明けにけり
 若きらが「ちよつとマク」と言ふときは構へずともよしバーガー屋の前

前田敏彦



古川支店推薦	いちつほししまいほぞんかい 市坪獅子舞保存会	設 立	30～40 年前
	いけうち たかお 会長 池内 隆夫 氏 (出席:副会長 今村 雅彦 氏)	会員数	30 名

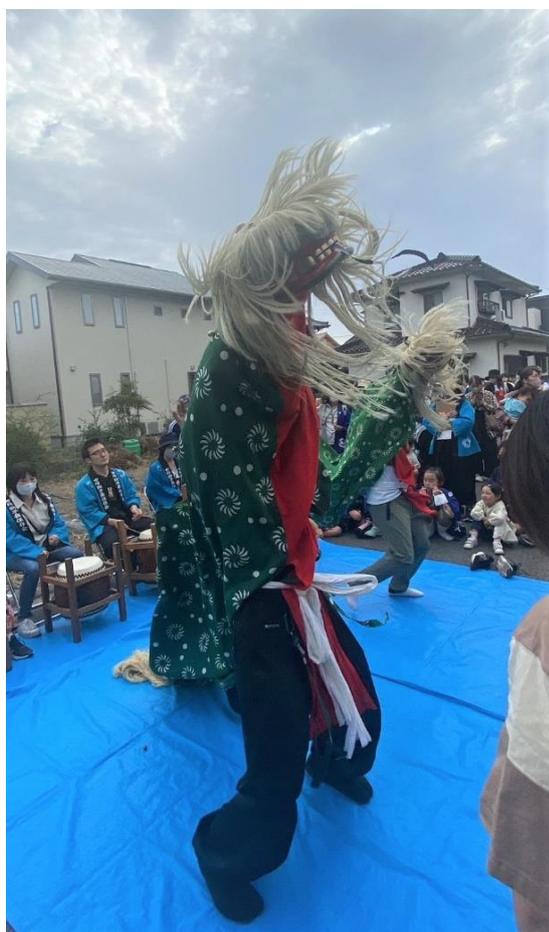
市坪獅子舞保存会様は、松山市市坪に伝わる獅子舞を保存伝承されています。

詳細な由来は不明ですが、一説では保免西地区のひまねきはちまんだいじんじゃ日招八幡大神社から、市坪のそが素鷲神社へ分社された際に獅子舞を習ったと伝えられています。

雄獅子で、大人獅子と子供獅子があり、2頭の獅子が同時に舞う「連獅子」は、本会独自のものとして好評で、秋祭りや地域行事等で披露されてきました。

踊りは、6つの演目からなる「本獅子」が基本ですが、全て踊ると20分程かかるため、現在は10分程に再構成した「飛ばし」と呼ばれる演舞が主流となっており、「本獅子」の継承と後継者育成が課題となっています。

そこで保存会では、昨年から地元の椿小学校を通じて新規会員募集や見学会の開催告知を行い、会員増強に取り組んでいます。



今治支店推薦	いまばりしみんすいそうがくだん 今治市民吹奏楽団	設 立	1977(S52).4
	団長 <small>おち こうた</small> 越智 康太 氏	会員数	44名

今治市民吹奏楽団様は、1976年、今治北高等学校OBらが中心となり「吹奏楽同好会」として結成されました。翌年、現在の名称にあらため、地域の音楽文化向上を目指して活動しています。団員は10代から70代まで幅広く、吹奏楽部が無い学校の高校生も、希望があれば準団員として受け入れています。

毎年4月に開催する定期演奏会は今年で43回目を迎える他、商店街の土曜夜市や、今治文化芸術祭等イベントでの演奏、全日本吹奏楽コンクールへの参加、施設への慰問演奏等、幅広く活躍してきました。演奏曲は、吹奏楽の名曲からアニメ、ポップスまで幅広く、「組曲 しまなみ」など地元根差した楽曲も手掛けています。

今後は、各地で検討されている「学校の部活動の地域移行」にも協力できるよう、地域との連携や環境整備を行い、より充実した活動を目指していきます。



今治市民吹奏楽団

Imabari Community Wind Orchestra

第43回定期演奏会

2025.4.27(日)
開演14:00 (開場13:30)
今治市公会堂
入場料 無料



- ♪2025年吹奏楽コンクール
課題曲より
- ♪さくらのうた
- ♪ディズニー・
ファンティリュージョン
- ♪美空ひばりメドレー
など

SNSやってます♪




IMASUI.1977

主催 今治市民吹奏楽団
 後援(申請中も含む): 今治市・今治文化協会・今治市文化協会・南海放送・愛媛朝日テレビ
 テレビ愛媛・あいテレビ・今治CATV・愛媛新聞社・マイタウン今治新聞社・愛媛県吹奏楽連盟
 お問い合わせ 080-8631-1263 imasui.jimukyoku@gmail.com

今治支店推薦	あがたししまいほぞんかい 阿方獅子舞保存会
	にのみや ひろみち 会長 二宮 浩通 氏

設 立	1971(S46).4
会員数	49名

阿方獅子舞保存会様は、今治市阿方に伝わる継獅子を保存伝承されています。

継獅子は伊勢の大神楽に由来すると言われ、明治初期に今治の高山重吉氏が伊勢で習得した舞や芸を、今治の各地に広めて始めました。阿方の獅子舞も明治時代に始まり、1949年からは2頭の夫婦獅子で披露されています。毎年5月の阿方清水天満宮春大祭や、8月の今治市民のまつり「おんまく」で披露される他、依頼に応じて結婚式やイベントにも参加しています。

演目は「舞」と「芸」があり、見どころは雌雄一對の継ぎ獅子です。また、女子の出番を増やそうと「巫女の舞」を創作し、三番叟では巫女が大人の肩に乗り、鈴や扇で華やかな演舞を披露します。

コロナ禍で子役が減少するなど人員不足が課題ですが、かつての「四継ぎ獅子」の復活を目標に練習を重ね、貴重な伝統文化の継承と発展に取り組んでいきます。



伯方支店推薦	はかた 伯方さざなみコーラス
	代表 あべ ゆうこ 阿部 優子 氏

設立	1981(S56).10
会員数	12名

伯方さざなみコーラス様は、1981年に今治市伯方町のコーラス愛好家3人によって結成され、翌年の合唱祭を契機に本格的に活動を開始しました。

現在、35歳から80歳まで幅広い年代が参加しており、声を合わせて生まれる美しいハーモニーの魅力を、多くの人に届けたいとの思いで活動しています。

レパートリーは、童謡、唱歌からアニメ、ミュージカルまで幅広く、演奏会の最後には観客と共に「ふるさと」を歌うのが恒例となっています。

以前は「お母さんコーラス愛媛大会」にも参加していましたが、現在は地元で根差した活動が中心で、毎年、伯方町の文化祭へ参加している他、近年は「しまなみ第九」や、しまなみ海道沿いの7つのコーラス団体によるジョイントコンサートに出演しました。

今年度は、今治市文化芸術祭への出演を新たな目標に掲げ活動しています。



宮浦支店推薦	<small>きたがわ</small> 北側まつり保存会	設立	1970(S45).4
	<small>ほぞんかい</small> <small>ふじい</small> <small>しんや</small> 会長 藤井 進也 氏	会員数	63名

北側まつり保存会様は、今治市上浦町井口地区に伝わるだんじり、獅子舞、花踊りを保存伝承されています。

だんじりは、近隣では珍しい「ふとんだんじり」で、長年「だんじり保存会」が運営していました。子供獅子舞も昭和10年代から活動していましたが、コロナ禍による中断や少子高齢化の影響で、2023年に両組織を統合し、新たに「北側まつり保存会」として再出発しました。

井田八幡神社の秋祭りでは、約30名の担ぎ手による勇壮な練りが披露されます。また、獅子舞は中学生女子が舞手を、小学生が烏帽子や猿役を担当。さらに女子高生らによる「花踊り」「扇子踊り」「ぼんぜん踊り」が華やかさを添えています。「ぼんぜん踊り」は一度途絶えかけましたが、数年前、地域の努力で復活しました。今後も県外在住者や移住者の参加を呼びかけ、地域一丸となって貴重な伝統文化継承に取り組んでいきます。

宮浦支店推薦	かいどうゆめだいこ かみうら海道夢太鼓
	会長 <small>おちまさお</small> 越智 正男 氏

設立	1989(H1).10
会員数	20名

かみうら海道夢太鼓様は、1989年、当時の上浦町の支援を受けて地元有志により設立された和太鼓グループです。町のキャッチフレーズ「海と光と夢の島」にちなんで命名されました。

会員は大三島在住者や地元に縁のある若手が中心で、後年、小・中学生も加わりました。

練習は週1回で、先輩が後輩を指導するほか、他団体の助言やプロの演奏を参考にしながら独自の演奏を追求しています。演目は、オリジナル曲「海鳴り」「海の道」「祭り」などで、地元の芸能大会やサマーフェスタ、今治市民のまつり「おんまく」などで演奏しています。

また、2年毎に開催される「サイクリングしまなみ」でも、多々羅しまなみ公園で熱演を披露し、勇壮な太鼓演奏で地域を盛り上げてきました。

その他、海岸のキャンプ場清掃や福祉施設訪問など地域貢献活動にも取り組み、和太鼓を通じた青少年の健全育成に寄与しています。



小松支店推薦	こまつさんそうかい 小松山草会	設 立	1983(S58).4
	会長 <small>たまい たけお</small> 玉井 武夫 氏	会員数	13名

小松山草会様は、山野草に恵まれた地域の特性を活かし、1983年に地元有志によって設立されました。毎月1~2回定例会を開き、種蒔きや挿し木、剪定、株分けなどの技術を学びながら、情報交換を行っています。

春と秋に開催される「山野草展示会」は40回以上の実績を持ち、ハクサンボウやウスユキソウなど約350鉢もの多様な山野草が一堂に会する貴重な場として人気を集め、遠方からの来場者も少なくありません。

また、一般向けの苔玉作り体験や山野草の育て方講習、子ども達を対象とした七草粥イベント等も開催し、幅広い世代に山野草の魅力を伝えています。

これらの長年の活動が評価され、2024年には愛媛県文化協会から地域文化功労賞を受賞しました。これからも、地域の豊かな自然を未来へ伝える役割を担っていきます。



宇和島支店推薦	<small>さるたひこ</small> <small>ほぞんかい</small> 猿田彦ねり保存会	設 立	1949年(S24)
	<small>みょうじん</small> <small>りょうへい</small> 会長 明神 良平 氏	会員数	39名

猿田彦ねり保存会様は、宇和島市の宇和津彦神社秋季大祭に出場する猿田彦行列を保存伝承されています。

起源は1648年、同神社の新宮落成を祝う祭りで、氏子の各町が八つ鹿や牛鬼等の練り物を繰り出し、愛宕町の猿田彦が先頭を務めたこととされています。明治中期や戦後に一時衰退しましたが、何度も危機を乗り越えて伝統の姿を守り続けてきました。

現在、巫女は宇和津地区の小・中学生女子が、太鼓や道具運搬は男子が担い、秋季大祭の宵宮の境内で披露する他、翌日は市内各所を練り歩き、100ヶ所近くで祝詞をあげ、巫女の舞を披露しています。巫女の舞は昭和40年頃からはじまり、白羽二重しろはぶたえの千早ちはやを翻して艶やかに舞うその姿から「白鷺しらさぎの舞」と呼ばれ、市民に親しまれてきました。これからも地域をあげて、歴史ある伝統行事の継承に努めていきます。

